

【本文】

竊かに以みれば、難思の弘誓は難度海を度する大船、無碍の光明は無明の闇を破する恵日なり。しかればすなわち、浄邦縁熟して、調達、闍世をして逆害を興ぜしむ。浄業機彰れて、釈迦、韋提をして安養を選ばしめたまえり。「これすなわち権化の仁、齊しく苦悩の群萌を救済し、世雄の悲、正しく逆謗闍提を恵まんと欲す。」

【意訳】

竊かにおもいをめぐらすと、人間の考えではおよばない弘大な誓いは、度り難い生死の海を度らせてくださる大きな船、何ものにも碍げられない光明は、無明の闇を破る恵みの太陽である。だからこそ、浄土という邦があらわれる縁が熟して、

【語註】

- ・竊かに：こっそり盗み取るの意。そこから、そつと、人知れず、失礼ながらという謙遜の意を表す
- ・難思の弘誓：思いはるかに超えた弘大な誓い
- ・難度海：この苦しみの人生を海にたとえ、それが超え難いこと
- ・無碍の光明：何ものにも碍げられない光。仏の智慧をたとえる
- ・無明：人間の迷いの根本にある煩惱。無知、愚痴
- ・浄邦：きよらかな国。浄土
- ・調達：提婆達多
- ・闍世：阿闍世
- ・浄業：清浄な行業。浄土に往生する行
- ・機：仏の教法を被る対象、またその素質
- ・釈迦：釈迦牟尼仏
- ・韋提：韋提希。阿闍世の母
- ・安養：安樂世界
- ・権化：仮に姿を変えて現れた者
- ・群萌：衆生
- ・世雄：仏の尊称。世に偉大な勇者
- ・逆謗：五逆と誹謗正法
- ・闍提：一闍提の略。仏になることができない者

提婆達多が阿闍世をそそのかして国を奪い、父の王を死にいたらしめたという、反逆の罪を興させることとなった。浄土に生まれる業とそれにながう機が彰れて、釈尊は、韋提希が安養浄土を選ぶようにおはからいになった。これは、王舎城の人々を通してあらわれた、仁のところが、苦悩する群萌をそろって救済し、また、世に雄れた仏の悲のところが、正しく五逆・謗法・一闍提にいのちのゆたかさを恵みあたえようと欲われたことによるのである。

【本文】

「かるがゆえに知りぬ。円融至徳の嘉号は、悪を転じて徳を成す正智、難信金剛の信樂は、疑いを除き証を獲しむる真理なりと。しかれば、凡小修し易き真教、愚鈍往き易き捷徑なり。大聖一代の教、この徳海にしくなし。」穢を捨て浄を欣い、行

【語註】

- ・円融至徳の嘉号：あらゆる功德が欠けるところなく円かにそなわり、無碍自在に無上の徳としてはたらく妙なる名号
- ・難信金剛の信樂：グイヤモンドのこと。如来のはたらしきによって成就した、金剛のように決して壊れることのない信心
- ・凡小：凡夫
- ・捷徑：近道
- ・大聖一代の教：釈尊が、その生涯をかけてさまざま説かれた教え
- ・しくなし：およぶものはない
- ・穢：穢土。煩惱に穢れた迷いの世界
- ・浄：浄土。迷いを超えたまことの世界